

第8回 NPO法人日本総合リハビリリスト協会 学術大会

テーマ【介護業界の現状と介護職員の労働環境】

【自立支援・介護予防に関する実践報告会】

*座長: 船津良夫氏(ユニ・チャーム株式会社排泄ケア研究所長)

- ① 排泄リハケアと各プログラムの関連
- ② クオリティ オブ ライフの維持支援
- ③ 外国人介護士が言葉文化の壁を越えたデイサービス



【基調講演】: 『気付きを次につなげるには』

地域包括ケアとは、介護から医療への地域連携のお話です

講師: 宮下 剛 氏 森田病院言語聴覚士 神奈川摂食嚥下リハ研究会副代表

【特別講演】: 『自分らしく生き活きと生きるために』

ディズニーやユニクロなど大手企業の教育改革者のお話が聴けます

講師: 大谷 佳子 氏 株式会社オフィス大谷 代表取締役

*座長: 原田保氏 (ケアプランナーみどり YCM 制度対策委員長)



【理事紹介】: 『介護業界を元気にする一言を頂きます!』

プログラム

12:30~ 受付開始 13:00~ 開会挨拶

第Ⅰ部 13:05~ 【自立支援介護予防の実践報告会】

- ① 排泄リハケアと各プログラムの関連
- ② クオリティオブライフの維持支援
- ③ 外国人介護士が言葉文化の壁を越えたデイ

13:50~ 【基調講演】 宮下 剛 氏

「介護から医療への地域連携」

第Ⅱ部 14:45~ 【特別講演】 大谷 佳子 氏

「これからの介護について」

16:20~ 【みんなで介護業界を元気に!】

16:25~ 表彰式・閉会の辞



御 挨拶

若鮎踊る季節、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

社会保障制度が見直され“地域包括ケアシステムの構築”が必須とされる昨今、私ども日本総合リハビリリスト協会も介護職の社会的地位向上を目指す使命を感じ、改めて背筋を正す思いでございます。

当協会でも定期勉強会や研修会をさせていただいてから、多くの方々からのお問い合わせを頂戴し、介護に関わる職種連携の実践へと結びつかせて頂く事が出来ました。

御蔭さまで、昨年度の学術大会での内容や今まで蓄積してきた研究実績を『在宅ケアネット全国集会』等でも発表することができ、我々の活動を全国的に啓蒙する機会もあり有意義な一年間となりました。

これも偏に、皆様御一人御一人の御理解と御協力によるものだと改めまして感謝申し上げますと共に、今後も活動を通じ超高齢化社会における介護職の重要性と社会的地位の向上、および自立支援と介護予防の周知と必要性を広域的に伝える事で、介護に携わる皆様方へのメリットとして還元いたします。

さて、本年度も恒例となりました日本総合リハビリリスト協会学術大会は御蔭さまで8回目を迎えさせて頂きました。

第1回から第6回までは、口腔・栄養・運動器・排泄・地域連携・認知症と毎年のテーマを関連付け、介護予防と自立支援を一連の流れとして考えながら開催して参りました。

昨年は【介護職の職業倫理と仕事の本質】をテーマに横浜市介護支援専門員連絡協議会の原田保氏を講師としてお迎えし『プロとしての責任、誇り、そして想い』と題して、超高齢社会の日本を担う職種の方々へ向けエールを送る御講演を頂き深い感銘を受けました。

今回は【介護業界の現状と介護職員の労働環境】をテーマに、第Ⅰ部の基調講演では言語聴覚士の宮下剛氏に『気付きを次につなげるには』と題して地域包括ケアのお話しを頂き、第Ⅱ部の特別講演ではディズニーストアなど一流企業のスタッフ教育や介護スタッフセミナー等多くの実績をお持ちの大谷佳子氏をお迎えし『自分らしく生き活きと生きるために』と題してこれからの介護について御講演を頂きます。

皆様と共に介護業界を元気にしましょう！

大会長 川崎 正仁

《賛助会員の募集》

本協会は高齢者に対し尊敬と感謝の意を込めて社会に求められる介護の実践を普及し、介護職の社会的地位確立を図り継承していくことを目的としております。つきましては、ご賛同頂けます方の募集をしております。学術大会当日の受付にて、ご登録頂けますので何卒よろしくお願い致します。

(賛助会員の年会費 1,000 円です。後日、協会ホームページからの登録も可能です。)

〒246-0021 横浜市瀬谷区二ツ橋町318-5 NPO 法人日本総合リハビリリスト協会

TEL : 045-744-5402 受付時間 月～土 10:00～16:00

ホームページ npo-jtra.org

第8回 NPO 法人 日本総合リハビリスト協会 学術大会 抄録集

自立支援と介護予防に関する実践報告会

座長：船津 良夫 氏（ユニ・チャーム株式会社排泄ケア研究所所長）

① 演題名：排泄リハケアと各プログラムの関連について

所属名：RH瀬谷

発表者：佐藤 厚子・ 共同演者：吉村 博美

【目的】高齢化社会を迎える中、利用者の排泄に関する悩みは増えてきている。

しかし事実を受け入れられない方、恥ずかしさから打ち明けられない方、問題と思わない方は多く、問題として表面化されないことは多い。

リハビリストホームで排泄リハケアの知識を身に着けた全職種の協同により、より多くの利用者様の悩みや問題点に適時適切な対応を取ることで不安や問題を解消し利用者様の自立度を高める。

【概要】尿臭がある利用者様へパットなど排泄ケア用品の提案や、脊髄からの麻痺による下半身に感覚がない利用者様の便失禁へのアプローチ、トイレの回数が多い利用者様の排出尿量や残尿量のチェック、そして不安や問題を抱えている利用者様へ機能訓練での排泄動作の訓練を行った。

【結果】排泄ケア用品の使用を開始した利用者様が入浴に入らない場合のアフターケアの難しさや、残尿測定器（ゆりりん）を用いた膀胱の位置確認の際に失禁させたり、利用者様がリハケア用品への抵抗が強いことを感じ対策を考えた。その結果、排泄リハケアが進み利用者様のプログラムへの意欲、食事や水分摂取に関する意欲、そして表情や精神面での変化が見られるようになった。

【考察】リハビリストホームでは、利用者様の自立度を高め、「ご自身のやりたいことを行える。行きたい場所に行く事が出来る。」ように様々なリハビリを行っているが、利用者様の声を傾聴すると排泄の不安や問題を抱えていることが非常に多い事が顕在化した。また「早く気付く、対策を考える、取り組む」ことがいかに大事か分かった。今後、排泄リハケアに真摯に個々の利用者に向き合い取り組んでいく。

② 演題名：クオリティライフの維持のための支援

所属名：RH南花畑

発表者：沢田 潔 共同演者：鈴木京子・佐藤京子・吹越めぐみ

【目的】通所で求められることの一つは在宅生活の維持のための個別支援の充実化である。

しかし生活模様は様々であるが、根底にある思いは「居心地の良い大切な場所」であり「生き方」である。これこそがQOLで、これを維持する我々の取り組みについて紹介する。

【概要】QOLの維持向上に向けた個別支援の充実化とは、利用者様のニーズに合わせたありのままの姿を受け入れる事が大切であると考えた。我々は、その方らしい生活に重点を置き、且つ尊厳を守るためにリハビリストならではの包括的スキルを活かし、多職種で連携したチームケアの取り組みの実践を発表する。

【結果】まだ経過途中ではあるが、本人は勿論ご家族の介護負担軽減に繋がり何よりも利用者様の精神的、身体的にも穏やかで活気ある時間を過ごして頂けており、ケアマネからの紹介の増加した。

【考察】少しづつでもQOLの向上に踏み出せるような支援を目標に介護職として常にスキルアップを心掛け、利用者様のありのままの姿を受容出来る深い心を持ち日々のケアに取り組んでいきたい。

③ 演題名：外国人介護士が言葉と文化の壁を乗り越えて活躍中のデイサービス

所属名：RH王子神谷

発表者：将田 ブリギダ・中尾 ちえ 共同演者：染谷夕子・小川翔三・木村さやか

【背景】 東京で新たに開設する施設として北区王子神谷を選んだ理由として、東京23区の中で北区は65歳以上の老年人口比率が最も高く高齢化が深刻であること。

そして当施設は高齢者の多い団地の一角にあり、団地内にお住いの方が通所しやすい環境であることから選出された。

そのような新施設で新入社員の外国人介護士が勤務することになった。

【目的】 超高齢化を迎える日本では要介護者が増加しているなか、東京の中心として王子神谷から包括的自立支援サービスを外国人介護士を通じて発信、提供していく。

【概要】 リハビリストホーム王子神谷の現場で働いている外国人介護士がリハビリストとして活躍していく中で、言語や文化の違いなどで奮闘する様子をご利用者様との関わりを振り返り、本来の介護とは何かを伝えたい。

【結果】 ご利用者様との信頼関係を築くことができ、ご利用者数やご利用回数の増加がみられた。包括的自立支援サービスをしっかりと提供できた事により、ご利用者様の身体機能改善や生活意欲の向上など良い結果がでた。

【考察】 高齢化が進んでいる北区という地域で包括的自立支援サービスが評価され根付き始めている中で、リハビリストである外国人介護士が言語や文化の違いなどの壁を乗り越え、日々努力しご利用者様に必要なサービスをしっかりと行うことによりご利用者様との絆も深まりとても良い施設になっている。

基調講演

座長：船津 良夫 氏（ユニ・チャーム株式会社排泄ケア研究所所長）

タイトル【気づきを次につなげるには】～地域包括ケアとは介護から医療への連携～

講師：宮下 剛 先生 森田病院 言語聴覚士 神奈川摂食嚥下リハ研究会 副代表

《講師プロフィール》

◆言語聴覚士とは：ことばや聞こえ、認知、嚥下などに問題がある方にICF（国際生活機能分類）の概念を用いて専門的なサービスを提供し自分らしい生活を構築できるように支援する専門職です。ICFとは、人の生活機能を健康、心身機能と身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子に分類して全人的に評価するツールです。

◆講師の主な活動：通常は病院の言語聴覚士として勤務する一方、相模原市緑区の旧津久井地区で嚥下障害に関する地域の情報交換会「津久井お口を想う会」の代表として活動。その他、神奈川摂食嚥下リハビリテーション研究会副会長、相模原北部栄養地域連携の会世話人、相模原北部摂食嚥下研究会世話人を務める。

◆資格等：言語聴覚士、認定言語聴覚士（摂食嚥下領域）、NST専門療法士、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、かながわ介護予防・健康づくり運動指導員

特別講演

座長： 原田 保 氏（ケアプランナーみどり・YCM制度対策委員長）

タイトル【自分らしく生き活きと生きるために】 ～これからの介護について～

講師： 大谷 佳子 先生 株式会社オフィス大谷 代表取締役

《講師プロフィール》



◆活動内容

人材開発を中心とした研修企画開発、研修講師、
パーソナルコーチング、ビジネスコーチング

◆研修実績

介護士対象コミュニケーション研修、コーチング研修
リーダーシップ研修、モチベーション研修、発言力up術、NLP研修
デール・カーネギートレーナーとして、「デールカーネギーコース」
他にプレゼンテーション研修、ビジネススキル研修等

◆コーチング実績

1500時間以上のパーソナルコーチング、企業内コーチング

◆クライアント実績

社会福祉法人、製造小売専門店、ラグジュアリーブランド、百貨店、製造メーカー、保険金融業、
ITソリューション企業、物流業、など

◆経歴と実績

株式会社ダイエーでは、ハードライン売り場マネージャー
ディズニーストアでは、店長で入社し、取締役までを経験
店長マネジメント教育プログラムの企画とその定着
舞浜旗艦店ゼネラルマネージャーとしてランドオープン日に売上高のワールドレコードを達成、
ゲストサービスマスター制度の導入と拡大
株式会社オリエンタルランドの商品販売部長、店舗の労働生産性を向上
株式会社ユニクロにてユニクロ大学(店舗教育部門)、店舗マネジメント対象コーチング研修導入
2010年4月より、現在の(株)オフィス大谷 代表取締役として活動

◆資格

米国NLP協会認定トレーナーアソシエイト・デール・カーネギー・トレーニング認定トレーナー
コアアクティブコーチング 「CTIジャパン」 応用コース修了

御 礼

本日は、お忙しい中の御参加と当協会に対する賛助の御協力をいただき誠に有難うございました。

この資料や模様は、当協会ホームページにも掲載いたしますのでお時間のある時にご覧いただければ幸いです。

皆様からのご意見を基に、この大会をより良いものにしていく所存ですので今後も宜しくお願い致します。

展示協力業者（50音順）

- | | | |
|----------------|--------------|---------------|
| ◇ イーエヌ大塚製薬株式会社 | ◇ 株式会社オーラルケア | ◇ ユニ・チャーム株式会社 |
| ◇ 株式会社大塚製薬工場 | ◇ 株式会社フードケア | ◇ ユリケア株式会社 |
| | | ◇ 渡辺商事株式会社 |